

四旬節第5主日C

「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。」

ヨハネ8・1-11

先週の主日は、「神の愛と憐れみ」がテーマでした。第5主日は、「神の慈愛」がテーマとなっています。私たちすべての父である神の憐れみ深い愛に注意を向けます。神はイエスの十字架の出来事において、すべての人に対する救いが実現するという無条件の愛を明らかにされました。

教会は、全人類に対するこの神の無条件の愛を儀式化するために、ゆるしの秘跡を制定しました。ゆるしの秘跡では、まず私たちの罪が主によってゆるされることが示されます。しかしゆるされるだけでなく、同時に私たちが罪を償い、新たな人生を歩む機会も与えられます。

今は、聖ヨハネ・パウロ二世と呼ばれますが、教皇ヨハネ・パウロ二世は、かつて、「神の愛とゆるしを共同体に広めることは、すべてのキリスト者の義務である」と言いました。

この日曜日の典礼は、主が私たちを神との和解に招いておられることを教えています。この和解は、自分の罪を認めることから始まるのです。そして懺悔をする意思を持って、回心への呼びかけに応えることへと続いていきます。

今日の福音はイエスと姦通の女の話ですね。イエスはこの姦通の罪で捕らえられた女性を、共同体の人々による迫害つまり石で打ち殺されことから救ったという話です。

静かな朝の出来事です。神殿には大勢の人がイエスの許に集まり、教えに耳を傾けていました。この神殿の聖なる雰囲気、土足で踏みにじるような者たちが現れます。彼らはイエスの話を聴いている人々の間に、荒々しく一人の若い女を連れて入ってきて、「先生、この女は姦通をしているときに捕まりました。こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうか考えになりますか。」とイエスを試そうとしたのです。ユダヤでは、どんな罪も二人以上の証人がいなければ訴えることができません。

この罪には相手がいるはずなのに、ここでは女ひとりが訴えられています。しかも姦通罪は成立すれば死刑になるというたいへん重い罪でした。

聖書によると、ファリサイ派と律法学者たちはイエスを窮地に落とし入れ罠にかけようとしていました。しかし、イエスは彼らを相手にしませんでした。そして「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」と言います。人はみな、自分の目の中の丸太に気づかずに、兄弟の目のおが屑を取りたいと思っています（ルカ6、41）。イエスの言葉を聞いた人々は、一人また一人と、立ち去ってイエスと女性だけになったということです。

ところで、みなさんもよくごぞんじの日野原重明さんが『100歳の金言』という本を書いています。その中に「幸せの敷居は低く」という文章があります。「幸せは、自分の心が決めること。決して人と比べるものではない。幸せの敷居を低く設定しておけば、日々たくさんの幸せを享受することができる。」という言葉があります。生き方に温かさを持っている人は、人を裁く敷居(基準)も低く設定しています。わたしたちは裁判官ではありませんから、人は弱い者である、罪にもそれぞれの事情がある、と考えることができます。人を裁くことの無い、やさしい心を身につけたいですね。

イエスは罪を犯したこの女性に「あなたを裁こうとした人たちはどこにいったのか。わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。」と言います。イエスは、罪を犯したこの女性の過去ではなく、今日からの生き方を見据えていました。

四旬節が残り少なくなった今、キリストの十字架の死と復活の恵みにあずかる時が近づいてきたことに心を集中させましょう。過去の罪から解放されて新しいのちにあずかるよう招かれていることを考えましょう。

私たちは罪深い者ですが、神のゆるしをいただいています。ゆるされたものとして他者をゆるし、兄弟姉妹の関係が良い方向に変えることができることを知り、感謝しましょう。

私たちの神は、慈悲に富み、慈愛に満ちた方です。神が慈悲深く私たちを救いへと導いてくださったように、私たちもまた、この神に従う者として、他の人々に寛容であるように招かれています。イエスご自身が教えてくださった祈り、「わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるしますから。」を祈りましょう。この祈りのように私たちすべてが、福音のメッセージを真に生きることができるよう。